

平成27年度 有老協サービス第三者評価結果

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2727	もみの樹・杉並	大和ハウスライフサポート(株)	H28.1.24
有老協HPでの評価結果公表希望		有	
評価機関	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク		

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	B	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	B	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	B	A	2.3.7	B	C	6.2.4	A	A
1.2.1	A	B	2.3.8	B	非	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	B	B
1.3.3	A	A	2.4.2	B	B	6.3.1	A	A
1.4.1	C	B	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	C	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	B	7.3.2	A	A
1.4.8	B	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非	非	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	B	4.1.2	A	C	7.4.4	A	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	非	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	B	B	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	B	C	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-3-4	本社主催で定期的に行われるお客様満足度調査で、介護サービス・健康管理サービス等の各種サービスの質について調査を行い、結果を運営懇談会で報告し改善につなげている。食事に関しては、入居者から意見を聞く機会を設ける他、茶話会を開き、食事関係者が出席して意見・要望を直接把握している。さらに、入居1年以内の入居者・家族とのカンファレンスを行い、意見・要望の検討・解決を迅速に行うよう努めている。
2-4-3	事故防止委員会を中心に、館内における事故予防および発生時の迅速な対応に努めている。事故発生時の対応は、事故防止マニュアルに定め、事故発生→現場検証→分析→再発防止策→管理者によるモニタリングの手順で行われ、事故の重大さで3ランク、スタッフの関与あり・なしに区分され、発生時間・場所・種別等の詳細な分析がなされている。再発防止策についても、モニタリングにより防止策の効果を確認するしくみができている。
4-2-2	アクティビティは、行事アクティビティ委員会が中心となって企画しており、「行事計画書兼報告書」で反省点を踏まえ、評価し、次につなげている。体操、書道、音楽療法などの他、餅つき・焼き芋・クリスマス会など季節の行事も取り入れている。また、ホームの広い庭を活用し、散歩はもちろん花見や菜園活動をしたり、入居者の個別の要望を叶えるオンリーワンプロジェクトで思い出の地を訪れるなど、多岐に渡って実施している。
6-3-2	本社主催の全社的な認知症プロジェクトが稼働している。毎月、各館よりプロジェクトリーダーを選出し、事例発表を実施する他、診療内科・脳外科の医師と連携し、専門的な助言をもらうなど、入居者にあった適切な介護につなげている。現在、認知症ケアマニュアルおよび事例集の作成に取り組んでおり、また、認知症サポーターを受講予定であるなど、認知症ケアの技術向上に向けて取り組んでいる。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
2-1-2	館内の単年度事業計画については、館長主導のもと、それぞれの活動目標、サービス向上のための取り組みが設定されて、今年度の活動指標となっている。活動指標については、各部門の目標となるものもあるが、それを受けて各グループごとの年度事業計画は策定されておらず、目標に向けての実行計画が必要と考えられる。生活サービス・健康管理・食事・総務等の各部門における計画策定に期待したい。
2-2-11	入居者の退去時における居室の原状回復義務については、入居契約書において「居室の明け渡しの場合に、通常の使用に伴い生じた居室の損耗をのぞき、居室を原状回復することとします。」としている。しかしながら、通常の使用に伴い生じた損耗の程度等について具体的に記載された取扱規程はない。入居者の安心を得るためにも、入居契約書の表示だけでなく、より詳細な取扱規程の作成が望まれる。
2-4-2	館内のマニュアルについては、サービスマニュアルを初め感染症マニュアル等の専門マニュアル、緊急時における事故対応マニュアル・災害マニュアル等多くのマニュアルが活用されている。現在、品質向上委員会を中心に介護共通情報等、マニュアルの見直し作業が行われており、改定にあたっては、改定・新設の記録の明示と定期的見直しルールの策定を期待したい。
6-3-1	職員の技術向上として業務マニュアルが作成され、全員が知っておくべき基本的な研修は実施されており、また、本社に研修に行った際は、館内で伝達研修を行い、職員間で共有している。現在、対象は全員のものが多いため、さらに、経験・役割・職階に応じた研修や看護・介護支援専門相談員など職種に応じた専門性にあつた研修などを盛り込んだ研修計画の策定が望まれる。